

(2) 子育て・子育てのための環境づくり

大竹小学校改築事業

NEW!

⇒ 54,590千円

(担当:総務学事課)

昭和44年から昭和47年にかけて建設された大竹小学校を改築するため、基本設計及び実施設計を行います。21年度～22年度に改築工事を行う予定です。

スクールバス購入事業

NEW!

⇒ 4,691千円

(担当:総務学事課)

栗谷小・中学校に通学する児童・生徒が利用するスクールバス（広原便）を更新します。

玖波小・中学校施設エアコン設置事業

NEW!

⇒ 23,516千円

(担当:総務学事課)

地球温暖化の影響により、室温が上昇している普通教室及び特別教室にエアコンを設置することにより、教育環境の向上（児童生徒及び教員の健康管理、授業の能率アップ、自主学習の推進、食欲減退の防止など）を図ります。

特別支援教育支援員配置事業

NEW!

⇒ 13,732千円

(担当:総務学事課)

小学校、中学校において障害のある児童生徒に対し、食事、教室の移動補助など、学校における日常生活動作の介助を行ったり、発達障害の児童生徒に対し、様々な場面で適切に支援することができるよう、特別支援教育支援員の配置を継続します。

また、本年度から新たに、発達障害の児童生徒に対する学習支援などの学習活動上のサポートを行う支援員を配置します。

放課後子ども教室事業（放課後子どもプラン）

⇒ 4,453千円

(担当:生涯学習課)

次世代育成支援事業として、地域や各団体・企業などと連携を図り、「放課後こども教室」を開催します。地域の方々に協力していただき、放課後や週末などを利用して学習機会や体験活動の場を提供します。

放課後児童クラブ事業(放課後子どもプラン)

⇒ 24,685千円

(担当:福祉課)

子どもを育てる保護者が安心して働けるよう、市内3ヶ所の「放課後児童クラブ」において、学校の終了時に家庭に保護者がいない小学校低学年などの児童に生活指導などを行います。

少人数学級推進事業

⇒ 29,874千円

(担当:総務学事課)

教師がゆとりを持って子ども一人一人にきめ細やかな指導を行えるようにするとともに、子どもたちが基本的な生活習慣や学習習慣の基礎を養えるよう、市内小学校の低学年を対象として、市独自に数名の教員を採用して学級担任として配置し、1学級30人の少人数学級を編制します。

特色ある教育活動支援事業

⇒ 3,937千円

(担当:総務学事課)

学校が保護者や地域住民などの信頼に応え、家庭・地域住民と連携・協力して児童・生徒の健やかな成長を図るための取り組みを進めます。また、日々変化する教育環境に対応するため、学校主体の教育を推進します。

NEW!

大竹市第2次次世代育成支援行動計画策定事業

⇒ 1,299千円

(担当:福祉課)

次世代育成支援対策推進法に基づき、平成21年度中に、市が今後進めていく子育て支援施策の方向性や目標を総合的に定めるものとして、「大竹市第2次次世代育成支援行動計画」を策定します。20年度は、ニーズの調査などを行います。

緊急児童一時預かり事業(ファミリー・サポート・センター)

⇒ 1,000千円

(担当:福祉課)

働く親が仕事と育児を両立できる環境づくりをすすめるとともに、地域の子育て支援を行うことを目的として、地域において、育児の援助を受けたい人と行いたい人を会員として登録し、NPO法人を運営主体として相互に援助活動を行います。

大竹市こども相談室・家庭児童相談事業

⇒ 14,708千円

(担当:総務学事課・福祉課)

悩みを抱えながら生活している子どもや保護者の相談窓口として、専門相談員により、幼児期から青少年まで一貫した相談が可能な「こども相談室」を運営します。不登校の児童・生徒に対して学習・生活面を支援し、自立への基礎を身につけるための教室もあわせて開設します。また、市役所福祉課では、家庭児童相談員を配置し、家庭における養育・人間関係などに関する相談・助言を行います。

松ヶ原こども館(つどいの広場)事業

⇒ 6,723千円

(担当:福祉課)

地域の子育て支援の拠点として、子育て相談、親子の交流の場の提供、子育ての情報の提供などを行う「松ヶ原こども館(通称:あっぷっぷ)」を、地元の自治会とNPO法人「ほのぼのん」に委託して管理・運営を行います。本年度は、こども館の移転工事に伴い、工事期間中は場所を移して実施します。

子育て支援センター運営事業

⇒ 141千円

(担当:福祉課)

地域全体で子育てを支援する環境づくりを行う拠点として、子育て支援センター(通称:どんぐりHOUSE)を運営し、育児不安に対する相談指導や子育てサークルなどの育成・支援を行います。

妊婦乳幼児健康診査事業

⇒ 9,047千円

(担当:保健介護課)

妊婦並びに乳幼児の健康の保持・増進を図るため、妊婦健康診査並びに乳幼児健康診査の受診券を配布し、異常の早期発見を促すとともに、適切な援助に努めます。20年度は、妊婦健康診査の受診券の配布枚数をこれまでの2枚から5枚に増やし、一層の母子の健康維持・増進を図ります。

乳幼児医療助成事業

⇒ 34,439千円

(担当:保健介護課)

乳幼児および小学生に対する医療費の自己負担について助成を行うことにより、疾病の早期発見と治療の促進を図り、乳幼児などの健やかな成長を促します。

平成16年10月から県制度の改正に準じて、入院・外来ともに一部負担制を導入し、通院についての助成の対象を3歳未満児までから小学校就学前までに拡大するとともに、市独自の制度として、入院についてはさらに対象を12歳未満児(小学校就学中)まで拡大しています。

母子保健指導事業

⇒ 839千円

(担当:保健介護課)

| | | |
|--|-------|--|
| <p>妊娠・出産・子育てに関する相談や講座，健診などの様々な事業を行い，親子の健康の保持・増進，育児不安の解消などの支援を行います。</p> | | |
| パパママスクール | 58千円 | 主に初めて父親・母親になる人を対象に，妊娠中の健康管理，夫婦で協力して行う育児の方法などについて指導を行います。 |
| ふれあいサロン | 132千円 | おおむね1歳までの子とその保護者を対象に，身体測定，育児相談，栄養相談などにより，育児不安の解消を図るとともに，仲間づくりの場の提供を行います。 |
| 乳児健康相談 タッチケア講習会 | 595千円 | 生後4ヶ月児を対象に，身体発育測定，精神・運動機能の発達チェック，育児・栄養相談などを行い，乳児の健康状態を確認し，疾病や障害などの早期発見および適切な治療や療育がなされるための支援を行います。また，赤ちゃんへのマッサージを通じ，母子間の愛情の向上を図るとともに，発達の促進，育児不安の軽減の場の提供を行います。 |
| 食育推進事業 | 54千円 | 3歳児とその保護者を対象に，自分で団子づくりと試食をしてもらい，食べる物を自分で作る楽しさや食生活の大切さについて理解を深める場の提供を行います。 |

赤ちゃん訪問事業

⇒ 663千円

(担当:保健介護課)

| |
|--|
| <p>生後4ヶ月までの赤ちゃんのいる全家庭を，保健師及び民生委員・児童委員などが訪問して，子育てを支援する事業です。 子育てに関する様々な不安や悩みなど，お母さんの相談を受けたり，子育て支援に関する情報の提供を行います。</p> |
|--|

幼児育成支援教室

⇒ 395千円

(担当:保健介護課)

| |
|---|
| <p>1歳6ヶ月児健康診査などにおいて要経過観察となった幼児とその母親を対象として，成長発達を促す関わりが持てるように，子どもの発達支援センターの専門職員による「たんぽぽ教室」を開催します。単発的な相談・指導では解消しにくい子育ての悩みをもつ母親に対して精神面でのフォローや，長期的視野に立った指導を行います。</p> |
|---|

子育て支援事業

⇒ 304千円

(担当:生涯学習課)

親子体操，こそだてじゅく「ひよこルーム」，えほんでハートフルなどの事業を実施し，子育てに関する悩みの解消や，同世代の子どもを持つ親同士の交流・子育てに関する情報提供の場を提供します。また，1歳6ヶ月児健康診査の時を利用して，保育士などによる相談・助言を行います。

中学生交歓交流事業「少年平和大使」

⇒ 735千円

(担当:生涯学習課)

市内中学校生徒が，沖縄県豊見城市の生徒とホームステイ，平和学習，体験学習などを通じて交流し合うことで，広い視野と友情を深め，次代を担う人材の育成を図ります。20年度は新たに中学1・2年生を募集し，豊見城市の中学生を受け入れます。